

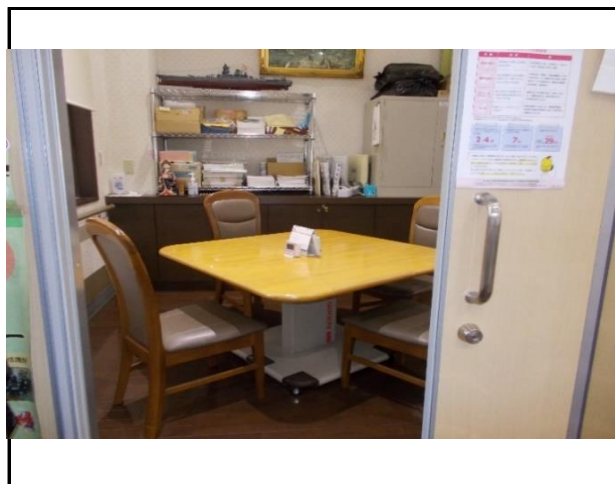
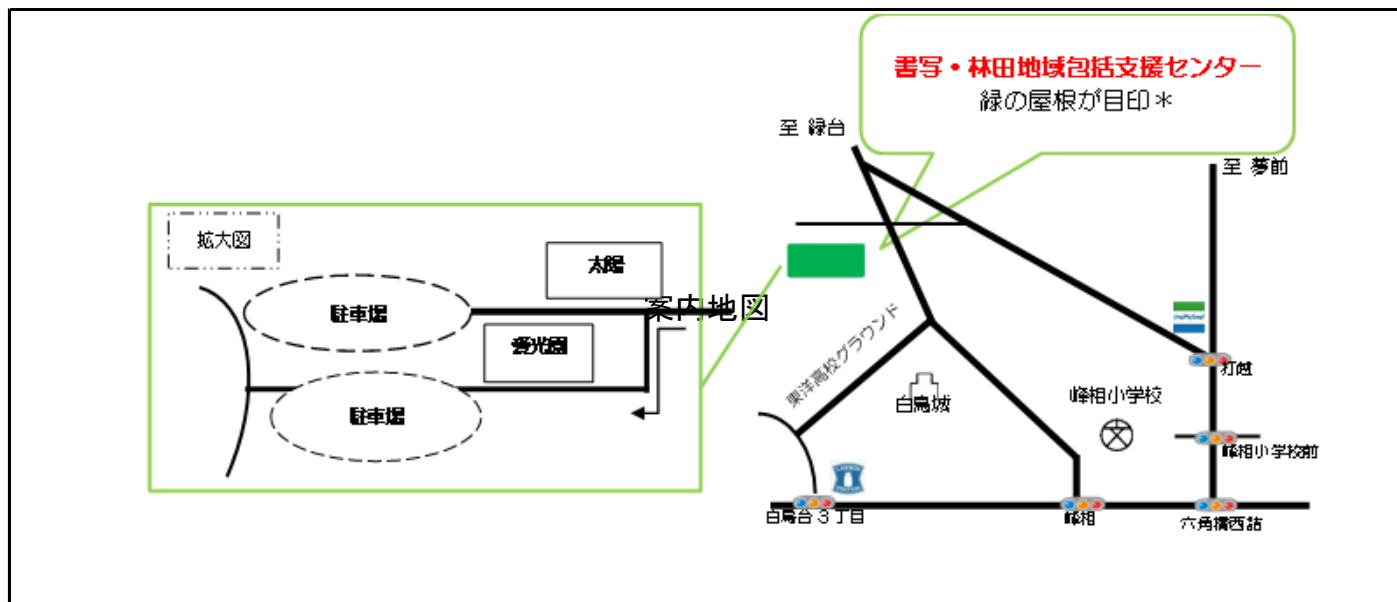
地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市書写・林田地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人 姫路社会福祉事業協会
統括責任者名	森本 重治
管理者名	桐野 智美
所在地	〒671-2246 姫路市打越1075番地1
電話	079-266-5885
FAX	079-260-6850
メールアドレス	shoshahavashida@hyogo.email.ne.jp
ホームページURL	https://www.h-fukushi.com

【センターの案内】

センターまでの 交通手段	神姫バス35番、40番で「打越西・太陽公園前」で下車、徒歩5分 神姫バス35番、40番、43番で「打越新田・太陽公園北」で下車、徒歩5分
-----------------	---



【センターが所在する地域の特徴・特性】

書写・林田圏域は姫路市西部に属します。書写地区は曾左小学校区と峰相小学校区、林田地区は林田小学校区と伊勢小学校区に分けられます。姫路市全体の高齢化率27.4%に対し、曾左校区29.1%、峰相校区47.3%、林田校区40.2%、伊勢校区34.7%といずれも高くなっています。相談件数では、書写・林田地域包括支援センター全体を100%として、曾左校区は約45%、峰相校区は約35%、林田校区は約15%、伊勢地区は約5%であり、高齢者人口と比例しています。

古くからの地域が多く、住民同士のつながりがあり、見守りが自然とできているところが多くあります。新興住宅は30年～50年前に出来たところが多く、関係性ができている地域とそうでない地域と分かれます。一部の地域では後継者不足により老人会や婦人会の継続が難しく、地域の関わりが希薄になっている地域もあります。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

年に4回、地域の関係者(自治会長、民生委員、交番、消防署等)に「ほうかつだより」と活動報告書を持参するとともに地域の情報を伺い、関係性の構築、連携に努めています。

年に2回、地域の民生委員代表と意見交換や情報共有する場を設けています。

通いの場(いきいき百歳体操や認知症サロン等)で地域住民と交流し、地域包括支援センターの啓発をするとともに相談しやすい関係性の構築に努めています。

相談を受けた場合は必要に応じて地域包括支援センター内で話し合い、多角的な視点を持ち、支援するようにしています。

地域包括支援センター内を明るい雰囲気を保ち、来所される方が相談しやすくなるよう心掛けています。

【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

通いの場等集まる環境が新型コロナウイルス感染症禍前に戻り、高齢者だけでなく様々な世代の人が集まるようになることを目指します。そうした中で人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる地域になることを目指します。

地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	書写・林田地域包括支援センター
実地調査日時	2024年 9月 25日
評価調査者名	カ久恵弥 山本礼子 高原洋一

【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

地域包括支援センターとして、長く地域で活動されていることを活かし、活動を継続されています。地域の行事では地域包括支援センターのブースの設置を依頼されるなど、その存在が広く認知されています。また、地域によっては自治会の防災訓練に参加し、非常時を想定した活動も行っています。通いの場での「姫路市認知症の気づきチェックリスト」を実施する際は、観察係2名を派遣し、設問の読み上げを行うなど機会を十分に活かせる取り組みを実施されています。

【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

あんしんサポーターや認知症サポーターが活躍できる場所や仕組みをつくり、地域で暮らしやすい体制を整えていく活動に期待します。また、地域の輪や支援の輪から零れ落ちることのないように、目の届きにくい世帯を把握し、必要な支援や情報が行き渡る仕組みづくりが必要だと感じられました。これまで築き上げてきた地域との関係性という強みを最大限に生かした取り組みを期待します。

【市民(住民)からの意見やコメント】

あんしんサポーターや認知症サポーターの実働人数が増えるような活動が必要だと感じました。
パンフレットの配布数を増やすことで、包括支援センターの活動を知ってもらえる方が増えると思いました。

【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

地域の情報が入ってきやすくなるよう、幅広い世代に地域包括支援センターを知ってもらおうよう努めます。そのために地域まわりを継続し地域関係者との関係性を維持し、地域包括支援センターの役割をパンフレットやほうかつだよりで地域住民に啓発すること将继续します。
あんしんサポーターや認知症サポーターの啓発だけではなく、自助、互助がさらに機能する地域となるよう事例を通して啓発していきます。

評価項目・着眼点		地域包括支援センターの体制確保
		(基本的な考え方) 地域包括支援センターは地域包括ケアシステムのコーディネーターとして、高齢者分野の困りごとを地域で受け止める役割を果たすものであり、地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割として地域で認識されることが必要です。
		地域包括支援センターの周知
		① 地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。
		② 専門性を生かした地域包括支援センターの運営
		専門知識、対応力を備えたセンターのスタッフの確保と人材育成を図る。
セ ン タ ー 記 入 欄	取り組みの状況	・年に4回ほうかつだよりを発行し、自治会長、民生委員、警察、消防署等に持参しています。地域住民へは自治会を通し、回覧していただいています。パンフレットを作成し、地域の郵便局、金融機関、公民館等に設置し、必要な方へ渡していただくよう依頼しています。・年に1回統括責任者のヒアリングがあり、相談しやすい環境と協力体制を整えることで仕事が続けられるよう努めています。各自必要な研修に参加し、自己研鑽に努めています。・ソフト保守が切れるタイミングでICT化を進めていく予定です。
	現在課題と感じていること	・業務が煩雑化する中、ICTの環境整備の必要性は感じていますが、デジタルに疎い職員が多く、今後慣れていく必要性を感じています。
	目標達成のための今後の取り組み	・警察との関わりが増えてきている中、お互いの役割の理解不足を感じています。今後、話し合いの場を設け、お互いの理解を深め、連携しやすい体制を作っていきたいと思っています。
評 価 調 査 者 記 入 欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	「ほうかつだより」には地域住民が知りたいと思われていること、知ってもらいたいことを特集するように努めています。ICT環境の整備については、法人グループ内のシステムの切り替えで、次年度より必要な情報を取り入れていく計画があります。研修については年間計画はもとより、手上げ方式で参加しやすい体制を作っています。また資格取得を勧める助成金制度を利用したバックアップ体制があります。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	職員の欠員はありませんが、高齢化で今後が心配であるとの事でした。一段と若い方が勤めやすい環境作りを期待したいです。警察との思い違いや行き違いがあり、原因はお互いの仕事について理解不足だったことと考えています。今後継続して交番の方と話し合う機会を保つように期待します。

評価項目・着眼点		基本目標1:生きがいを感じながら暮らすための支援の充実
		(基本的な考え方) 人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。
		介護予防に関する認識の変革
		① 85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。 市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。
		② 高齢者が通える場があるまちづくり 介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。
センター記入欄	取り組みの状況	・「ほうかつだより」夏号に、通いの場への新規参加者を増やすこと、利用者の介護予防に関する意識の向上、認知症の早期発見を目指し「姫路市フレイルチェック票」と「姫路市認知症の気づきチェックリスト」実施日程(いきいき百歳体操、認知症サロンの会場とその実施日程)を掲載しました。・曾左公民館と下構総合福祉センターにて各年に10回の健康教室を計画しています。・老人会の会合やふれあい給食等でフレイル予防の講座を行っています。
	現在課題と感じていること	・通いの場の参加者は女性が多く、男性が少ない傾向です。新規参加者の追加が少な目です。・通いの場の環境(距離、会場の段差、トイレ等)による通いにくさがあり、参加中断の理由にもなっています。・通いの場のお世話役の後継者のなり手がなく、後継者問題があります。・認知症サロンの書類作成等が高齢者であるお世話役には負担が大きく、新規認知症サロンの立ち上げや継続の難しさが課題となっています。
	目標達成のための今後の取り組み	・通いの場でフレイル予防や認知症の講座を含め啓発活動を継続していきます。また、「ほうかつだより」への掲載し、回覧板等で多世代に周知できる工夫をしていきます。・通いの場の長期欠席者や参加者からの気ばかり情報を得て、高齢者と関わる方法を考えていきます。個人情報、個別性を大切に、早期の支援体制を整えます。また提案や助言による早期のフレイル予防に取り組みます。・通いの場へ継続できる方法を地域住民と一緒に考えていきます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	「老々介護や2人暮らし」「元気にお暮らしの方」にも、地域の困り事を自分自身に置き換えてもらい、お互いに助け合う協力をしあう、互助共助の意識を高めるように講座を継続的に開催しています。「姫路市認知症の気づきチェックリスト」を活用し、次のサービスにつなげる過程として、集まりの場で項目を1つずつ読み上げ、不安や戸惑い表情がないか小さな変化まで理解しようと努めています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	公共の場所や集まりの会場が遠く、いきいき百歳体操、認知症サロンに参加できない方に対して他事業所の協力を得ながら対応していることを継続するとともに、今後一人暮らしや目の行き届きづらい地域住民の方への更なる配慮を期待しています。また、市内の病院2か所で認知症の無料検査を実施していますが、移動手段が乏しく活用が困難となっており、地域の課題の克服に向けた取り組みが期待されます。

評価項目・着眼点		基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築
		(基本的な考え方) 日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。
		地域包括支援センターの相談機能強化
		① 地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。
		世代や分野を超えた地域のつながりの構築
センター記入欄	取り組みの状況	・総合相談は基本職種と認知症担当とで専門的な視点から意見交換し、支援の方向性を決め対応しています。毎日のミーティングや月に1回のセンターミーティングで確認する事で漏れなく継続的支援が行えるようにしています。外部研修の報告や内部研修を行う事で職員全員が資質向上に努めています。 ・「ほうかつだより」を年に4回発行し、自治会を通して全戸へ回覧し、多世代へ地域包括支援センターの役割りを周知しています。「ほうかつだより」と地域包括支援センター事業報告書を自治会や民生委員等各機関に配布し、連携に努めています。
	現在課題と感じていること	・精神疾患の疑いがある方、生活困窮の方、身寄りのない方等、地域包括支援センターだけでは対応が難しいケースが増えています。そのため、行政や各関係機関と連携を取りながら対応していますが、解決に時間を要することが多いです。 ・ほうかつだよりで多世代に地域包括支援センターの啓発をしていますが、どこまで周知されているかが把握できていません。
	目標達成のための今後の取り組み	・保健福祉サービスセンターや成年後見支援センター、行政、社会福祉協議会、各種団体等多様な機関と連携を図り一緒に相談していくことでお互いの役割について理解を深めながら世帯を一体的に支援できるようにしていきたいです。民生委員や自治会、警察や消防等と話し合いの場を持つことでお互いの役割を理解し、地域の困りごとの解決に向け一緒に考えていく関係性を築いていきたいです。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	緊急電話にも対応し、相談を受ける体制があり、専門職5名が話し合いながら困難事例に対応しています。また、「ほうかつだより」を各地域にお届けする時に困り事をお聞きし、必要があれば対応しています。長年の付き合いを重ね民生委員との信頼関係を構築し、根強い協力体制があります。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	高齢の問題だけではなく、障害があり、不安や悩みを抱えている地域の方にも対応できるよう、相談支援事業所等と交流を深めていただくことで、更なる地域共生社会実現に向け力を発揮いただくことを期待しています。また、地域の目の届きにくい方の把握や、課題の整理の方法が確立されることを期待します。

評価項目・着眼点		基本目標3:地域で暮らし続けるための支援の充実
		虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。
		多様なサービスの活用
		① 地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用する。
		② 地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み 地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などの取り組みを通して地域の支援体制の充実を図っていく。
		③ 地域社会資源の開発とネットワークのための取り組み 高齢者が地域で暮らし続けるための社会資源を開拓していくとともに社会資源との連携が出来るようになる。
セ ン タ ー 記 入 欄	取り組みの状況	・ケアマネジャーへ、「ほうかつだより」等で通いの場について情報提供をしています。フレイル予防や近隣住民との繋がりを持てるよう、高齢者へ支援計画の提案をしています。・地域支えあい会議や生活支援体制検討会議を通じて、高齢者に関わる支援者や近隣の地域住民と情報共有し、地域のネットワーク作りに取り組んでいます。・あんしんサポーター等の活動で社会参加することにより、高齢者のフレイル予防に繋がることを「ほうかつだより」で伝え、あんしんサポーターの活動参加を啓発しています。
	現在課題と 感じていること	・通いの場の環境(距離、会場の段差、トイレ等)による支援計画の難しさが あります。・圏域内のゴミ出し日時が重なり、あんしんサポーターの活動の 調整が難しくなっています。・高齢者の個人情報の許可が得られなかった 場合、個人情報保護の関係で、地域住民等との連携が難しくなることがあり ます。その結果、早期解決への至りにくさがあります。
	目標達成の ための今後の 取り組み	・地域住民から社会資源の情報を収集し、相談者やケアマネジャー等に情報提供 します。・地域まわりを継続し、自治会や民生委員、警察、他関係機関等と情報共 有を図ることができる体制づくりを継続します。・「ほうかつだより」や通いの場等 を通じ、地域による共助、地域コミュニティの大切さを考える時間を設け、お互いの助 け合いができる地域の力をつけるための啓発をしていきます。・通いの場を通し、 自助意識(フレイル予防)を高める啓発を行います。高齢者に関する情報を災害等 の発生時の体制を地域住民と共有し、災害時に備える取り組みをします。
評 価 調 査 者 記 入 欄	評価で確認 した特徴的 な取り組み や工夫点	フレイル予防講座を年間で10回計画し、書面にて公民館に掲示しています。 地域住民が支え合い困り事が表面に現れない理想的な地域もあり、より良 い関係が継続できるように民生委員、自治会の方との面談の機会を多くして います。インフォーマルサービスの利用状況も、居宅支援事業所と情報共有 しながらケアプラン上に上げてもらい継続して見守る機会を増やしています。
	次のステッ プに向けた 気づきや期 待したい点	個人情報の観点から地域の方が知りたい情報を伝えづらいこともあり苦慮 する場面もありますが、今後も障害があっても、高齢になっても協力し合い助 け合う活力ある地域づくりに期待しています。また、あんしんサポーターの活 動がしやすいような地域づくりができるよう、各自治体などとの連携体制の 強化に期待します。

評価項目・着眼点		基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現
		認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防（認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする）に関する取り組みを推進します。
		① 認知症にやさしい地域づくり
		認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。
		② 認知症になるのを遅らせるための取り組み
		高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。
センター記入欄	取り組みの状況	・認知症サポーターに対しサロン運営に協力してもらうよう、計画準備をしています。・「ほうかつだより」に通いの場の開催場所と時間を掲載することで通いの場への参加を促しています。・姫路市フレイルチェック票の実施と認知症気づきのチェックを実施し、対象者に認知症の専門機関受診を啓発しています。・認知症の相談があった場合は、認知症ガイドブックを活用し早期発見、医療機関受診の必要性を伝えています。
	現在課題と感じていること	・現在認知症サポーターの活躍ができていないため、具体的な活動事例の提案の必要性があると感じています。 ・地域住民に対して、認知症は誰もが発症する可能性がある病気という視点で啓発ができていないため、我が事としての認識が不十分な状況です。 ・サービス導入や制度の利用を検討する場合は、自助・共助など地域包括ケアシステムを支える4つの助について理解してもらえるように働きかける必要性があると感じます。
	目標達成のための今後の取り組み	・認知症サポーターとしてやりたい事、思っている事を伺い、できそうな活動について一緒に考えて行きます。認知症サポーターの活躍の具体例について、紹介して行きます。 ・認知症サロンや通いの場での早期発見、早期対応につながるよう引き続き世話役の方から情報収集を行っていきます。 ・通いの場や地域住民に対して認知症に関する情報提供や、認知症サポーター養成講座の受講を促していきます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	認知症について「ほうかつだより」でお伝えしたり、認知症サロンが継続し開催できるように世話役の方と密に交流をとっています。いただいた情報から受診へとつなげた事例もありました。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	一部お迎えのある認知症サロンもありますが、会場に行きたくても行けない方を支える力を継続して開拓されることに期待しています。また、地域住民に対して、認知症の啓発が不十分であると感じられており、具体的な周知方法について確立を目指しての取り組みのいくことを期待します。